

平成 31 年度

**運営に関する計画**

平成 31 年 4 月 12 日

大阪市立大正北中学校

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

- ・全国学力学習状況調査において、全国や大阪府の平均正答率を下回っており、学力の向上が最重要課題である。
- ・学力向上には基本的生活習慣の確立が不可欠であり、挨拶や言葉遣い、決められた時間を守る等の指導を徹底し、授業規律を向上させてきた。また、現在は家庭学習の徹底と定着に向けて取り組んでいるところである。
- ・学習面においては、基礎基本の定着はもちろんのこと、授業への集中力を高め、「できる・わかる喜び」を感じる授業づくりを展開している。今後は「生徒に考えさせる場面」や「生徒が発表する場面」を多く取り入れた授業へと改善していく必要がある。
- ・健康、体力の保持増進においては、本校の特徴である熱心な体育的活動を中心に、人一人の能力や技術が向上することで、生徒のやる気がさらに高まるよう取り組んでいる。これを継続していくために、今後は食育をはじめとした健康教育をさらに改善していく必要がある。

## 中期目標

## 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成32年度末の生活アンケートにおいて「いじめや嫌がらせを、しない、させない、認めないようにしている」と答える生徒の割合をどの学年も90%以上にする。
- 平成32年度末の生活アンケートにおいて「学校生活のルールやマナーを守っている」と答える生徒の割合をどの学年も95%以上にする。
- 平成32年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を全体で5%以下にする。

## 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成32年度の中学校チャレンジテストにおいて、平均無回答率を大阪市・府の平均無回答率より低くする。
- 平成32年度の中学生チャレンジテストにおいて、5教科合計（1年は3教科合計）で府平均の7割に満たない生徒の割合を25%未満にする。
- 平成32年度末の授業アンケートにおいて、「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を、全体の80%以上にする。
- 平成32年度末の授業アンケートにおいて、「学校の宿題を、家庭で必ず行っている」と答える生徒の割合を、全体で80%以上にする。
- 上記4項目の達成を経て、平成33年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率において、全国平均との差を8ポイント以内となることをめざす。
- 平成33年度の全国学力・学習状況調査における「朝食を毎日食べていますか」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 平成33年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともすべての項目で大阪市平均を上回るように向上させる。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 校内調査において「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を、前年度より減少させる。

#### 学校園の年度目標

- 年度末の生徒アンケートにおいて、「いじめや嫌がらせを、しない、させない、認めないようにしている」と答える生徒の割合を、どの学年も90%以上にする。
- 年度末の生徒アンケートにおいて、「学級で自分の役割を果たし、良い学級づくりに貢献している」と答える生徒の割合を、どの学年も80%以上にする。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標（小・中学校）

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点（教育振興基本計画の成果指標）の向上に向けて、特に課題である柔軟性に関する種目の平均の記録を、前年度より2ポイント向上させる。

#### 学校園の年度目標

- 中学生チャレンジテストにおいて、5教科合計（1年は3教科合計）で府平均の7割に満たない生徒の割合を27%以下にする。
- 中学生チャレンジテストにおいて、5教科合計（1年は3教科合計）で府平均を2割以上上回る生徒の割合を25%以上にする。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点が、大阪市平均、全国平均をともに上回るよう取り組む。
- 保護者調査を2回行い、「子どもは、基礎的基本的な学力を身につけている」と答える割合を1回目より向上させる。

3 これまで（年度末）の自己評価結果の総括

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>全市共通目標（小・中学校）</b></p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○校内調査において「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を、前年度より減少させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○年度末の生徒アンケートにおいて、「いじめや嫌がらせを、しない、させない、認めないようにしている」と答える生徒の割合を、90%以上にする。</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおいて、「学級で自分の役割を果たし、良い学級づくりに貢献している」と答える生徒の割合を、どの学年も80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【 施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現 】</b></p> <p>日々アンテナを張ることに心がけ、定期的な相談活動を重視し、問題行動の早期・発見に努める。自他の尊厳を認め合い、好ましい人間関係、信頼関係、集団作りに努める。</p>	
<p><b>指 標</b></p> <p>相談活動を2回（4月・8、9月）、いじめアンケートを3回（7月・12月・3月）実施することで、問題行動を未然に防ぐとともに、安心安全な環境を整える。</p>	
<p><b>取組内容②【 施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現 】</b></p> <p>委員会活動や学級活動（教科係・班日直等）を通して、自分が与えられた役割に責任を持って取り組ませ、やり遂げさせることによって、自己有用感を高められるように努める。</p>	
<p><b>指 標</b></p> <p>学校生活アンケートを2回（5月・1月）実施し、「自分には、よいところがあると思う」と答える生徒の割合を、1回目より向上させる。</p>	
<p><b>取組内容③【 施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現 】</b></p> <p>日々の清掃活動の中で、清掃用具の使い方や整備状況に目を配り、職員間での情報共有を円滑にする。</p>	
<p><b>指 標</b></p> <p>美化委員や清掃班の班長を中心として、清掃用具の点検を毎週末（年間35回）を行い、そうじ場所の担当教諭に連絡する。年に2回の油引き、年度末に机椅子の整備、カーテンの洗濯を行う。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容④【 施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現 】 アレルギーを持つ生徒の情報や近況状況を、職員全体に周知徹底する。	
指 標 全職員で、アレルギーをもつ生徒の情報連携を密にとる。そのため、年度当初にエピペン講習会を開催し、日々の連絡はもとより、学期末の職員会議で、アレルギー該当生徒の状況報告を行う。	
取組内容⑤【 施策2 道徳心・社会性の育成 】 芸術に触れ親しむことにより情操面を育む。	
指 標 全学年を対象とした芸術鑑賞を行う。	
取組内容⑥【 施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援 】 大阪の歴史・現状・文化についての学習を通して、大阪への郷土愛を深める。	
指 標 2年で大阪を探訪する校外学習を実施する。	
取組内容⑦【 施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援 】 学校図書館を活性化し、授業での一斉読書やビブリオバトルといった教科と連携した取り組みに加え、朝読書の活動など学校生活の中に読書の機会を設け、読解力向上を目指す。	
指 標 図書館の来館者数と貸出冊数を、昨年度以上にする。 H30 来館者数 6374 名 貸出冊数 1842 冊	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
今後の改善点

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	進捗状況
<b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b>	
<b>全市共通目標（小・中学校）</b>	
○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。	
○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。	
○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。	
○校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を前年度より増加させる。	
○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点（教育振興基本計画の成果指標）の向上に向けて、特に課題である柔軟性に関する種目の平均の記録を、前年度より2ポイント向上させる。	
<b>学校の年度目標</b>	
○中学生チャレンジテストにおいて、5教科合計（1年は3教科合計）で府平均の7割に満たない生徒の割合を27%以下にする。	
○中学生チャレンジテストにおいて、5教科合計（1年は3教科合計）で府平均を2割以上上回る生徒の割合を25%以上にする。	
○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点が、大阪市平均、全国平均とともに上回るよう取り組む。	
○保護者調査を2回行い、「子どもは、基礎的基本的な学力を身につけている」と答える割合を1回目より向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】 復習テストや小テストを実施し、反復練習をすることで基礎、基本の定着を図る。また、前時の振り返りや内容の定着、発展的問題など、家庭学習を用意し、家庭でも学習する習慣の定着を図る。	
指標 学習アンケートを2回（5月・1月）実施し、「授業で分からぬときやもっと知りたいとき、そのことについて教えてもらっている」と答える生徒の割合を、1回目より向上させる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容②【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】</b> 放課後やテスト前、長期休業中の補充学習を実施し、授業で理解できなかった生徒への支援に努める。	
<b>指 標</b> 休業中の補充学習などの取組を、昨年度以上に実施する。 H3O 夏季19回 冬季18回	
<b>取組内容③【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】</b> グループワークなど、共同的な学習の時間を増やす。また、プレゼンテーションや発表の場を設けることで、自ら考え、表現できる力を養う。	
<b>指 標</b> 学校生活アンケートを2回（5月・1月）実施し、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答える生徒の割合を、1回目より向上させる。	
<b>取組内容④【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】</b> 週30時間目の「学力の時間」で、授業とリンクした課題や基礎的内容の定着に取り組む。そして、全教科に共通した学力の基本であるリーディングスキルの向上のため、学校保管用の教材を生徒の人数分購入し、全学年で語彙力アップを目指して取り組む。	
<b>指 標</b> 週1回の「学力の時間」を設けることを目指す。また、チャレンジテストにおいて、同一母集団で比較し、「読む能力」を昨年度より向上させる。 H3O 1年64.1%、2年58.4%	
<b>取組内容⑤【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】</b> 学校全体で「学力向上」を目標とし、各教科での創意工夫を共有できる体制をつくる。また、ＩＣＴ機器を整備し、生徒が互いに教え合い学び合う協働的な学びや、思考力・判断力・表現力の育成につながる言語活動、生徒一人一人の能力や特性に応じた指導等を充実させ、授業の質を向上させる。	
<b>指 標</b> 年3回の研究協議会を実施し、全教員が年1回以上の授業研究を行う。また、学校生活アンケートを2回（5月・1月）実施し、「授業では、タブレットやプロジェクターなど、情報機器を使っている。」と答える生徒の割合を、1回目より向上させる。	
<b>取組内容⑥【 施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組 】</b> 学校力UP支援事業を活用し、学力等に課題を有する生徒に対して放課後学習を中心に行い、基礎学力の定着に取り組む。また、週末用の自主学習課題を作成し生徒に配布することで、家庭学習の習慣化を図る。さらには必要に応じて授業における学習支援を行い、つまずき防止を図る。	
<b>指 標</b> 放課後学習および学習支援を昨年度以上に実施する。 H3O 放課後学習52回 学習支援60回	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容⑦【 施策7 健康や体力を保持増進する力の育成 】</b> 全職員が生徒の発育への意識を高め、心身の発育に関して情報連携を行っていく。	
<b>指標</b> 歯科受診の個別対応を粘り強く行い、歯科受診率を60%にする。また、発育状況や生活環境の把握に努めるため、二測定の2回（4月、9月）実施を目指す。	
<b>取組内容⑧【 施策7 健康や体力を保持増進する力の育成 】</b> 全職員が食育への意識を高め、日々の給食において、食べ残しや食わず嫌いを少なくする働きかけを行う。	
<b>指標</b> 給食時の献立内容についての放送（年間170回）を行い、食べ残しや食わず嫌いを少なくする指導を学校全体で行う。また、1日の残食率が全体平均で18%を超えないよう努める。	
<b>取組内容⑨【 施策7 健康や体力を保持増進する力の育成 】</b> 全職員が学校保健への意識を高め、保健だより・食育通信を参考にした指導を、様々な場面で実践していく。	
<b>指標</b> 保健だよりと食育通信を毎月発行し、生徒・家庭だけでなく職員間での保健関係の連携を密にする。	
<b>取組内容⑩【 施策7 健康や体力を保持増進する力の育成 】</b> 体育的活動推進と熱中症対策	
<b>指標</b> 気温が高くなる夏季において、屋外活動をサポートするため、集会用テントを活用する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
今後の改善点



平成 31 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大正北中学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：
• • •
年度目標：
• • •
• • •

3 今後の学校園の運営についての意見

--